

ゆうかりに乾杯

第22回放送の概要（2010年8月28日放送）

パーソナリティ

さくら（安本久美子）
タロウ（佃 由晃）
なかちゃん（中嶋邦弘）

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん（三木文子）



ミキサー

門ちゃん（門田成延）
一ノ瀬 悟

相談役

わだかん（和田幹司）

会計

小山俊則

1. オープニング

放送スタッフのなかちゃんが3冊目の本「遣唐大使」を今月奈良新聞社より出版した（1890円）。5～6年前より資料を集めて書き始めたもので、遣唐使としては安倍仲麻呂、吉備真備、鑑真和上が良く知られているが実際は20回ほど唐に使節を送っている。従って知られていない遣唐使もたくさんいる。記録もあまり残っていないので、少しの歴史的事実をつなぎ合わせて間を推測してストーリー建てしたものである。日本、唐、新羅3国の若い人が集まり交流の輪が広がっていくことをテーマに歴史をミステリー風口マン小説として書いたものである。今奈良で平城遷都1300年祭が開催されているがその記念事業協会の人にお世話になり実現した。学者の先生方も周知のことなのであまり踏み外した内容にすることは出来ない。参考資料を読みストーリーを考える時が一番楽しかった。

2. ゲストコーナー：兵庫高校総合科学類型の生徒さんと大前先生

今年新設された総合科学類型1年7組40名の中から6班5名のうち北村さん、麻野間さん、大石さん及び大前先生にお越し頂いた。

総合科学類型は県の教育委員会が様々な改革を行っている中で学校の特色を出していく必要があり、その特色に応じて特色選抜という新しい入試制度を活用することが出来ることになった。昨年1年間兵庫高校の特色は何かを考え、伝統校ということやさまざまな世界で先輩が活躍しており、社会に対するリーダー養成という役割を担っていることであると考え、リーダーを養成するにはどうすることが必要かを文科省、経産省、企業などが言っている事を研究した。その結果コミュニケーション能力、問題解決能力等がリーダーとして社会に求められている力であるとなった。そこで、そのような能力を活用し創造力を育むクラスとして新設した。対外的には「未来の創造者」を育てると説明しており、学ぶ科目には「創造」という言葉が入っている。科目名は「創造基礎」として1年生に取り組んでもらっている。授業の目的は地域のさまざまな課題を調べ、発見し、グループで討論して課題を解決する。そのためには地域に何か仕掛けていかなければならない。まさしく創造力を発揮し考えていく活動に取り組んでいる。学校の想いとしては社会を動かす、国際社会を動かす人材がこの中から生まれてくれればと思っている。

生徒の立場からこのクラスを選んだ理由について、北村さんは初めて特色選抜を聞いたときは賢い人ばかり行くので無理かなと思ったが、入学試験は推薦的で入試も早く終わるのでその後が楽と考え、また資料を読むと社会に出たときに役立つ力が身につくとあったので入学できればうれしかった。先生に言うのと落ちる覚悟で受けなさいと言われた。麻野間さんは自分から志望した。将来人の役に立てる仕事がしたいと考えており、昔から将来の夢はあったが流れに任せている自分がいると気づ

き、今の自分に捕らわれず何か新しいことに挑戦すれば新しい自分が見つかると考え志望した。大石さんは将来世界平和に少しでも役立つグローバルな仕事を目指しており、総合科学類型では英語の少人数授業や普通の授業では出来ない校外での体験、グループ活動があり、また将来役立つコミュニケーション能力などが学べるので志望した。入試の内容も苦手な面接や小論文があったが挑戦しようと思った。

授業の特徴としては英語、数学が少人数授業であり、1年生の創造基礎は他のクラスにはないもので週1時間行っている。また課外活動として地域に出かけている。入学してまだ1学期しか経っていないが北村さんの感想は、入学前は賢い人ばかりで固い雰囲気になると思っていたが、高校で友達はずべて変わったが皆フレンドリーで中学から一緒にいたような雰囲気であった。

1年7組6班が今取り組んでいるテーマは「野菜を育ててみんなでやさしい心になろう」である。このテーマに行き着くにあたってまずフィールドワークで取り組んできた。総合科学類型のこの授業は何の予告もなく突然始まり、最初6テーマが示されその中の一つである「人と人との絆」を選んだ。どのようにすれば人と人との絆が生まれるかわからなかったのが真野地区の清水さんにコミュニティの話聞き、まちで人と人の関係が生まれるにはコミュニティ活動が大事であることを知った。他の地域ではコミュニティ活動はあまり活発ではないが真野の活発なコミュニティ活動を他の地域にも広げたいと考え新しいコミュニティを作ることにした。他の地域と真野のコミュニティの違いは震災があったが古くからずっと続いているということである。「まちコミュニケーション」の宮定さんからはまちの人がコミュニケーションをとる手段としての野菜作りの土地探し、資金集め、人集めの方法を教えてもらった。それらを基に自分たちはこのような活動をしていることを紹介しないと人は集まらないと言われたので今そのようなHP作りをしている。7月に真野小学校で真野っ子まつりに立命館大学の学生が出しているお店を手伝った。立命館大学の学生は子供達との接し方が上手であると感じた。辻信一さんからは野菜を作るためには役所に企画書を出す必要があること、その土地は水が必要であること、農業を指導する人がいること、日当たりや多くの問題があることを聞いた。

問題が山積しているが多くの問題を解決していく過程で兵庫高校のコネクションは大きいので例えばOBの兵神機械工業会長の友藤さんのところでは水耕栽培を事業で始められている例も参考になる。野菜を作る場所としては阪神高速湊川ランプ出口付近を候補と考えている。今後企画書を出し、通れば具体化していくことになる。6班の扱っているテーマの内容は他の班にくらべ課題が多く、従って解決できれば素晴らしい大きな成果が得られると思う。

各班の取り組み内容の発表会が先般学校で行われた。自分の思いを人に伝えることは非常に大事なことであり、皆の前での発表は初めてのため5分という短い時間に自分たちがやってきたこと、言いたいことを伝えるのはすごく難しいと感じたが良い経験をした。今後やるべきこととしてはHPを早く作り、人を集め、企画書を提出することなどである。地域の人と一緒に取り組んでいくことが大事であると考えている。2学期は自然科学がメインになるのでこのテーマをどのように進めるかも課題の一つである。企画が通れば次は資金集めと人集めである。資金に関しては補助金を出す企業があるのでHPなどで調べると良い。市や県に兵庫高校の先輩がたくさんいるので活用することが大事。またライオンズクラブやロータリークラブにお願いすることも考えると良い。

総合科学類型の皆さんが2年半後の卒業するときこのクラスに入ってよかったと思えるように今から頑張っておコミュニティ能力や創造力を身につけて卒業されることを願っています。

3. 来月のゲスト

来月も引き続き兵庫高校総合科学類型の生徒さんから話を伺います。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで : buyou49@nifmail.jp